

# 安芸本町商店街 (安芸本町商店街振興組合)

高知県安芸市

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント

商いと地域コミュニティの融合。岩崎弥太郎の生まれ故郷で、オリジナル事業の全国「商い甲子園」を開催。

## 基本データ

所在地	高知県安芸市本町
人口	約2万人(安芸市)
電話/FAX	0887-34-3033 / 0887-34-3093
会員数	44名
店舗数	60店舗(小売業28店、飲食業4店、サービス業7店、金融業2店、医療サービス業5店、その他14店)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	高齢者、学生・若者/60歳代、20歳代

## 商店街概要

安芸本町商店街は高知県東部の安芸市中心市街地に位置し、江戸時代の終わり頃から今日まで商いを営む店も残る歴史ある商店街である。平成元年には利便性向上を目的とした商店街の環境整備を行うため組合を設立。平成14年の土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の開通時に安芸駅に併設された「安芸駅ぢばさん市場」や国道55号線以北への量販店の進出などにより、買い物客の流れが大きく変わり、国道55号線南側に位置する商店街の商業環境は厳しい状況にある。

近隣居住者のほか、複数の病院が立地していることから高齢者を中心とする通院時の来街者が多い。また、第一小学校、安芸高等学校が近接しており子どもたちの姿も見られる。

## 取組の背景

### 継続的な販促イベントを計画

安芸市は人口約1万7千人の高知県東部の中核的都市であり、三菱財閥の創立者である岩崎弥太郎の出身地である。近年は人口減少・高齢化が加速しており、経済活動が縮小傾向にある。また、量販店の進出などにより状況が厳しくなり、さらに経営者の高齢化による後継者不足が懸念される中、商店街活性化へ向けて新たな取組が求められていた。

そこで、共同駐車場および街路灯の維持管理に加え、継続的な販促イベントを計画。平成20年度から全国「商い甲子園」、平成25年から「本町出張商店街」を継続的に実施している。商店街へ買い物に出てくることが難しい高齢者の方などに喜ばれており中山間地域の振興に一役買っているほか、平成28年10月からは地元スーパーと連携して、高齢者のための「移動販売事業」にも取り組んでいる。そのほか、高知県の補助を活用して新たにチャレンジショップもオープンしており様々な取組を実施している。

## 取組の内容

### 全国「商い甲子園」を中心に、地域課題に取り組む

平成20年より毎年、安芸市に全国の高校生を集め商売の腕を競い合う全国「商い甲子園」を開催し、高校生に「商い」の面白さや大変さを学んでもらう

とともに、これを通じ商店街の活性化および若手の育成に取り組んでいる。

対象は全国の高校のチームであり、チームごとに設定したテーマに沿った商品販売を行っている。9回目を迎えた平成28年の大会には、県内の高校はもとより香川県や愛媛県、さらには静岡県の高校などから計12校19チームが参加し、商品知識やブースのレイアウト、接客マナーなど「商い」の技を競い合った。

希望者に対しては「商い実践講座」を実施。これは商店街の店主などがそれぞれの仕事・経験を活かして講師となり、「POP作成講座」、「商品撮影講座」、「接客講座」などの各種講座を大会前日に行うものであり、平成28年は6校49名の高校生が参加した。



安芸本町商店街の顔  
全国「商い甲子園」



店主などが講師を務める  
商い実践講座

また、県外から来た高校生に対して、少しでも安

芸の良さを知ってもらおうと、3年前から商店街内の店主の家庭で民泊も行っており、安芸市の特産品を使った料理と一緒に作るなど交流を深めている。

こうした地域全体と高校生が交流する取組を続けてきたことにより、全国「商い甲子園」も今年で10回目を迎える。3校10チームの参加で始まった第1回大会と比較すると、安芸市だけではなく高知県の商店街を代表する地域課題に対応したイベントに成長している。

また、安芸市は人口減少・高齢化が急速に進んでおり、中山間部も多いことから高齢者の買い物弱者が増加しているが、そこでの物販活動・ふれあいの場の提供などを行う「本町出張商店街」や地元スーパーと連携した「移動販売事業」にも取り組んでいる。「本町出張商店街」では月に1回物販とカフェを合わせた形で実施し、買い物の楽しさを提供すると同時に高齢者が地域の集まりや体操の後に立ち寄って会話するなど出張販売地の地域コミュニティの強化にも貢献している。



地元食材を使った  
民泊交流事業



地元スーパーと連携した  
移動販売事業

## 取組の成果

### 商店街の認知度向上および観光振興にも貢献

全国「商い甲子園」は今や商店街、高知県の「顔」となるイベントである。実際に「安芸本町商店街のイメージや認知度が向上し、交流人口の拡大や企業の共感が得られている」などの意見も多く寄せられ

ており、来街者もここ数年増加傾向にある。また、商店街の活性化はもちろんのことであるが、安芸市の観光振興にも寄与している。大会開催にともない市内4旅館・ホテルでの宿泊効果が生じているほか、参加する県外高校は安芸市内を観光しており、安芸市特産品の販売やPRにもつながっているところだ。

また、高校生が主役となる事業であるため、生徒への学びの場の提供になるとともに、参加校それぞれによる地域活性化にもつながっている。

大会は、厳正かつ専門的な審査に加え、商店街ならではの交流を肌で感じることができ、高校生が作る大会として人気を集め、多くの生徒がスタッフとして参画している。

## 実施体制

全国「商い甲子園」の実施に当たっては、実行委員会委員長が全体を統括しており、平成26年から統括グループ、企画運営グループ、民泊グループ、会場設営グループ、審査グループによる新たな体制を構築した。

また、実行委員会には安芸市商工観光水産課、安芸商工会議所、安芸市観光協会、安芸青年会議所、安芸市旅館組合、高知県産業振興推進部計画推進課が参画し行政をはじめとする他機関との連携体制が整っている。

さらに、地元の高校や「はばたけ弥太郎」安芸市推進委員会、安芸「釜あげちりめん丼」楽会、安芸市みらい会議などの地域活性化団体に加え、高知大学地域連携推進センターからも協力が得られるなど地域に根ざした夏の一大イベントとなっている。なお、大会開催後には実行委員会できりまとめを行い、次の大会までの課題や改善点の洗い出しを行っている。

## キーパーソンからのコメント



安芸本町商店街振興組合  
副理事長  
全国「商い甲子園」実行委員  
会 実行委員長  
松本 健

### 商店街の声掛けで協働の輪が拡大

長年実施していた商店街イベントのマンネリ化を打破したいという意識があった10年前、理事との会合の場で「いっそのこと、高校生に盛り上げてもらってはどうか」との声があがり、「商い甲子園」の企画が始まりました。

とは言え、全国を冠にするイベントを商店街単独で取り組むのは無理があるため、商工会議所や観光協会、行政、市民団体などとの連携を深めながら、参加校を開拓してきました。

### 商店街を交流の舞台にしたい

せっかく、県外から多くの生徒が宿泊

してくれていますから、安芸市民、安芸の高校生と交流して楽しい思い出をつくってほしいとの想いで、「商い甲子園」の前日に地元食材を使って料理体験する「民泊交流事業」や商店主などが講師をする「商い実践講座」を実施しています。ゼロから始めた「商い甲子園」ですが、様々な企画を盛り込みながら、安芸市の夏の恒例イベントとして成長してきました。

今後は、「商い甲子園」を商店街の「顔」としつつ、年間を通じて商店街に足を運んでいただくために、様々な交流の場を作っていきたいと考えています。